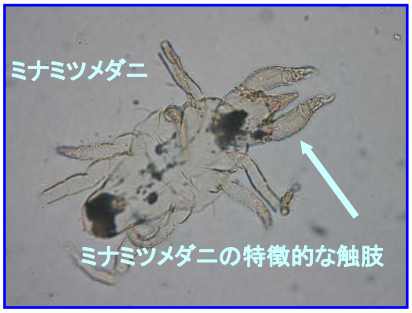
衛生動物だより

No.039

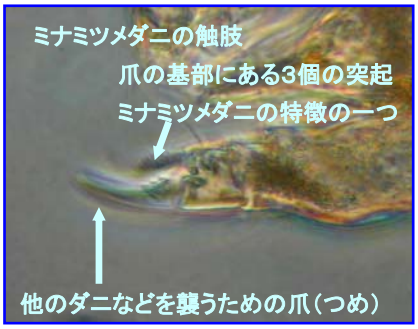
原因不明の虫刺され

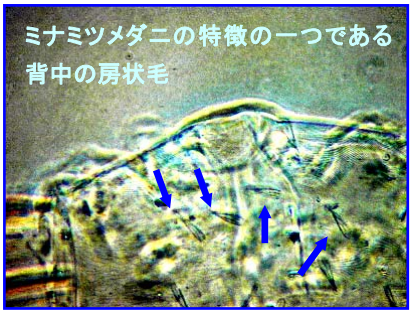
「虫刺されで困っている。かゆくてたまらない。市販されている水煙が出る殺虫剤を使用したが被害は減らない。何が原因なのか」との相談が寄せられました。相談者の虫刺されのあとを見せてもらいました。足や腕に虫刺されのあとと思われる発赤が数え切れないほどありました。相談者に対して，室内のホコリの中に生息するツメダニ類の被害の可能性がありますと説明したうえで相談者に室内のホコリを掃除機で採取し，持参してくださいとお願いしました。



検査成績

平成22年8月16日に室内のホコリを持参されました。飽和食塩水法により，持参された室内のホコリの中からダニの抽出を試みました。依頼された室内のホコリをシントーダニ捕集器の16メッシュのフイルターを通過し，200メッシュを通過しなかった0．13グラムの室内のホコリの中からミナミツメダニ128匹，イエササラダニ76匹，カザリヒワダニ16匹，チリダニ類20匹が検出されました。刺される被害の原因は，ミナミツメダニと判断しました。これほど多くのミナミツメダニを検出したのは久しぶりのことです。





ミナミツメダニ

昭和５０年代後半以降に多発しました。被害の多くは，新築マンションの畳の部屋で起こっていました。室内のホコリを調べると，多数のツメダニ類が確認できました。当時使っていたマニュアルには，詳しい記載がなく，学名や和名も分かりませんでした。やがて，被害を起こしているツメダニの学名は，*Chelacaropsis moorei* Baker であることが分かり，和名をミナミツメダニと命名されました。和名のとおり，熱帯地方に生息することが確認されている種類です。どうして熱帯に生息している種類が日本の住宅内に多発したのかについては次のような説がありました。当時，日本の畳のワラの生産が追いつかなくなり，台湾等から輸入していました。その輸入したワラにミナミツメダニが混入し，日本家屋内で異常に増殖し，刺される被害が多発したと推測されました。

ちなみに，平成２２年９月１３日にもミナミツメダニの相談がありました。０．０３グラムというわずかの室内のホコリの中にツメダニ類１０４匹，チリダニ類１４匹，イエササラダニ２匹でした。

対策指導

相談者には，「高周波処理や温風処理で駆除できます。ただ，高周波処理は，専門の業者（畳屋）に依頼する必要があります。また，ミナミツメダニは殺虫剤に強いことから殺虫剤による駆除も効果を期待できません。刺される被害は，ミナミツメダニの発生源である畳に直接肌が接することによって起こります。畳に素肌を接しないようにベッドで寝られると被害が少なくなることもあります」と説明し，様子を見てもらうことにしました。

高周波処理，温風処理

高周波処理とは，畳に高周波を当てて，畳内部のダニや小昆虫を焼き殺す方法です。言わば，畳用の電子レンジです。卵までも焼き殺すと言われています。

温風処理とは，畳を処理する空間に入れ，空気を加熱して，畳内部の温度を上げ，焼き殺す方法です。いずれも効果的な方法です。

昭和５０年代後半以降に多発したミナミツメダニは，当時，畳屋さんあるいはマンションの販売会社や管理会社に苦情が殺到しました。こうしたことを防ぐために，畳屋さんは，畳を納品する前に高周波処理などの殺ダニ処理を行うことが多くなりました。そのためでしょう。その後，ミナミツメダニの被害はすっかり少なくなりました。今回の二つの事例，久々のミナミツメダニの大発生でした。